

令和3年度

川崎市立南菅小学校 学校報告



令和3年12月に行いました「学校評価アンケート」へのご協力をいただき、ありがとうございました。家庭数で実施させていただき、184名の方にご回答いただくことができました。

保護者の皆様のアンケートの結果、全校児童対象のアンケートの結果をもとに、学校教育目標の実現に向けて取り組んできた活動の成果と課題について、3つのプロジェクトから報告させていただきます。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの活動を実施することが難しい面が多くありましたが、昨年度の経験をもとに3密を避ける工夫や感染症対策を講じた新しい取り組みなど、各プロジェクトで模索しながら進めてまいりました。

アンケートの結果から見えてきた成果と課題や、新たな取り組みを来年度の教育活動に活かしてまいります。

児童の健康面へのご配慮など、多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

来年度も学校教育活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. 学校運営について

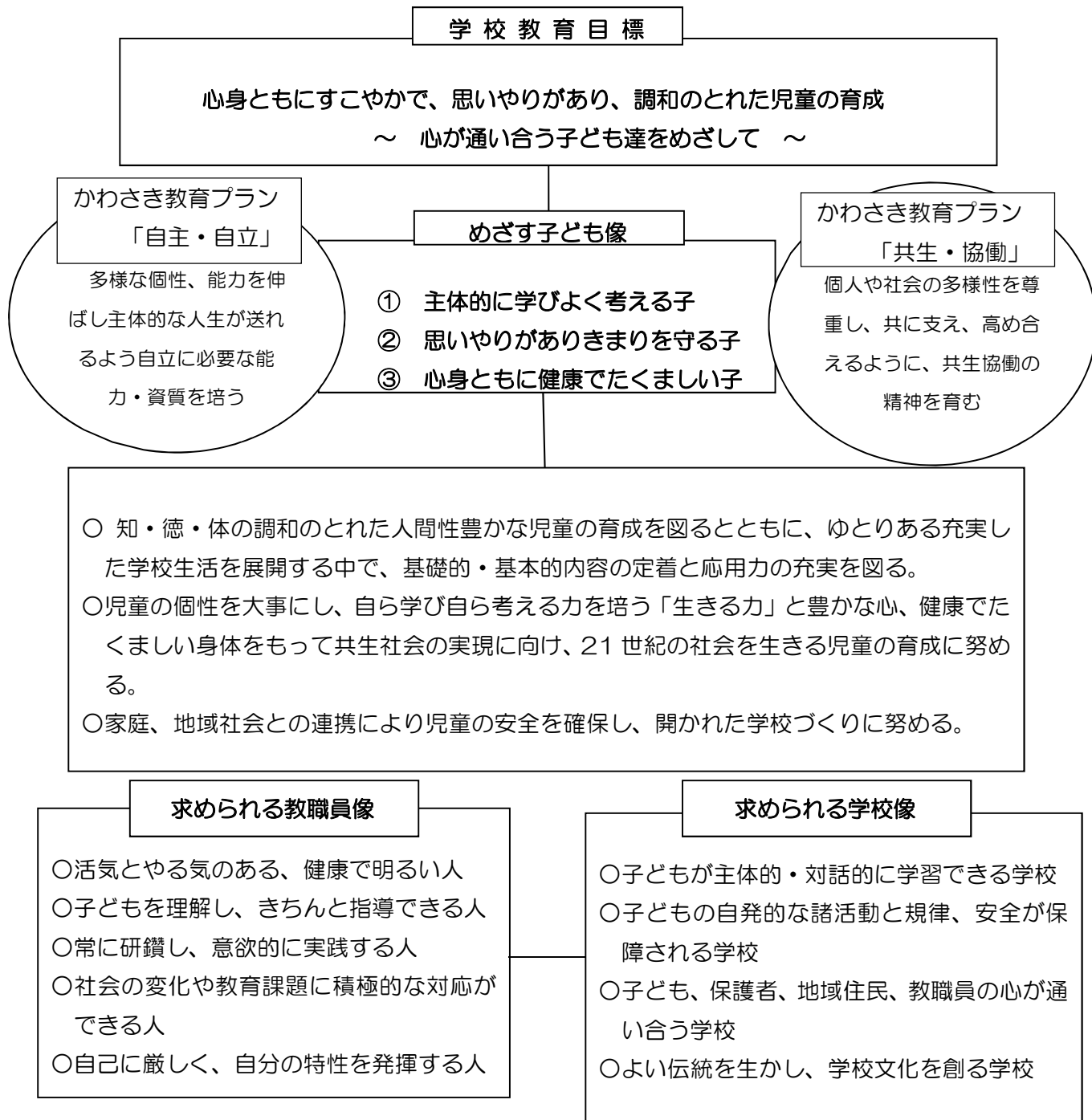
2. 令和3年度の成果と課題（学校評価アンケートより）

- 確かな学力の育成【学習プロジェクト】
- 豊かな心の育成【ハートフルプロジェクト】
- 健やかな体の育成【元気プロジェクト】

※キャリア教育のアンケート結果につきましては。各プロジェクトの報告に含めさせていただきました。

1. 学校運営について

○学校教育目標の全体構想



令和3年度の学校教育目標の重点

◎確かな学力の育成

- *主体的・対話的に学習を深める授業の充実
- *基礎・基本の定着と応用力を図る指導の工夫
- *多種多様で豊かな体験活動の充実
- *かわさきGIGAスクール構想に基づく学習の充実

◎豊かな心の育成

- *認め合い、支え合う学級づくりの工夫
- *規範意識の高揚と実践
- *きめ細かな児童理解・指導の充実
- *道徳教育の充実

◎健やかな体の育成

- *体育授業の充実と運動の日常化による体力の向上
- *運動に親しむ態度の育成
- *健康・食に関する意識の向上と実践の充実
- *安全指導の充実

◎主体的に学び、関りを通して、考えを深めようとする子どもの育成

- *生活科、総合的な学習の時間を中心に、地域の特色を生かしたカリキュラムの充実

学習プロジェクト

ハートフルプロジェクト

元気プロジェクト

※研究推進委員会

◎生きる力の育成

- *自己有用感・肯定感の醸成
- *社会性の育成
- *未来を創造し、将来に夢を持つ力を育成
- *地域への愛着心

重点項目に連動した各学年・学級での具体的な目標と取り組み

《良いことを認め合おう》「頭に良いこと、心に良いこと、身体に良いこと、クラス・学年・学校・家庭・地域のためにより良いことを実践し、相互に認め合いながら、実践力を養い、児童・保護者・地域・教職員が一体となって教育活動を推進していく。

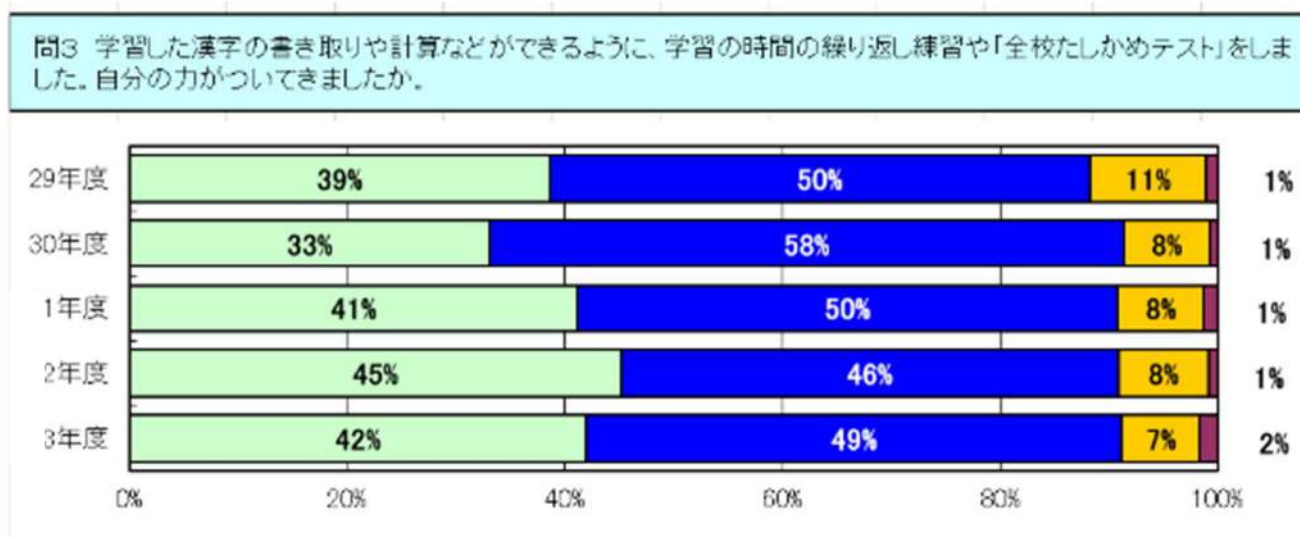
※生きる力を育成する研究推進校としての充実を図るために、研究に特化して令和3年度のみ設置する。

2. 令和3年度の成果と課題

学習プロジェクト

①学校評価アンケートより

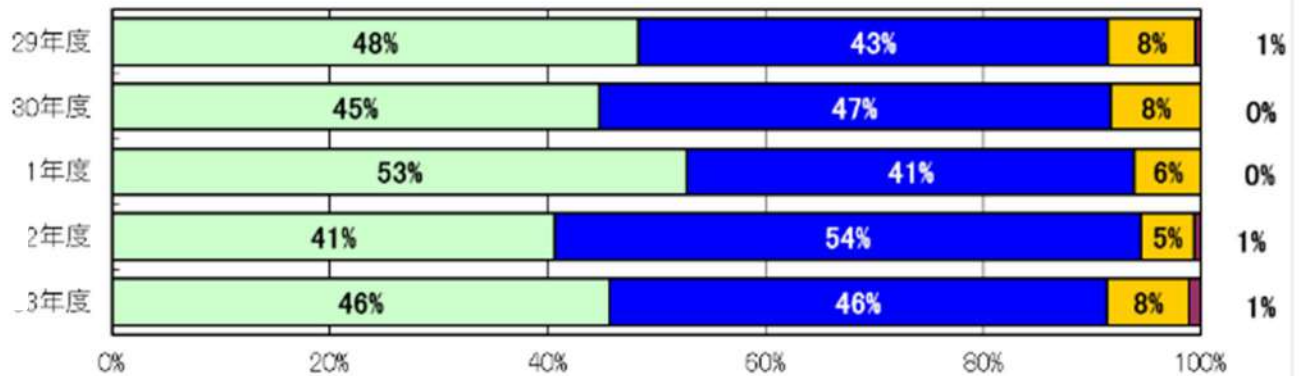
基礎的・基本的な知識・技能の習得について



令和3年度も、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指して、授業の内容と連動した家庭学習を行った。その成果として、児童アンケートでは、学習や「全校たしかめテスト」によって「力がよくなっている」「力がついた」と回答している児童が、前年度に引き続き9割以上を占めていた。

各学年、朝のモジュールの時間に基礎・基本を重点とした学習に取り組んだり、たしかめテストに向けて計画を立てて学習を進めたりしたことで、着実に力をつけることができた。朝学習では、新出漢字の学習やこれまでに習った漢字の復習を行ったり、計算の習熟を行ったりしている。授業の中で、さらに習熟を必要とする課題に取り組んできた。15分という短い時間ではあるが、効果的な学習を積み重ねてきた結果が表れていると考えられる。

問3 基礎・基本の定着を図るために、漢字や計算を繰り返して学習したり、「全校たしかめテスト」を実施したりしています。ご家庭でもお子さんの取り組みの確認や支援などをされていますか。

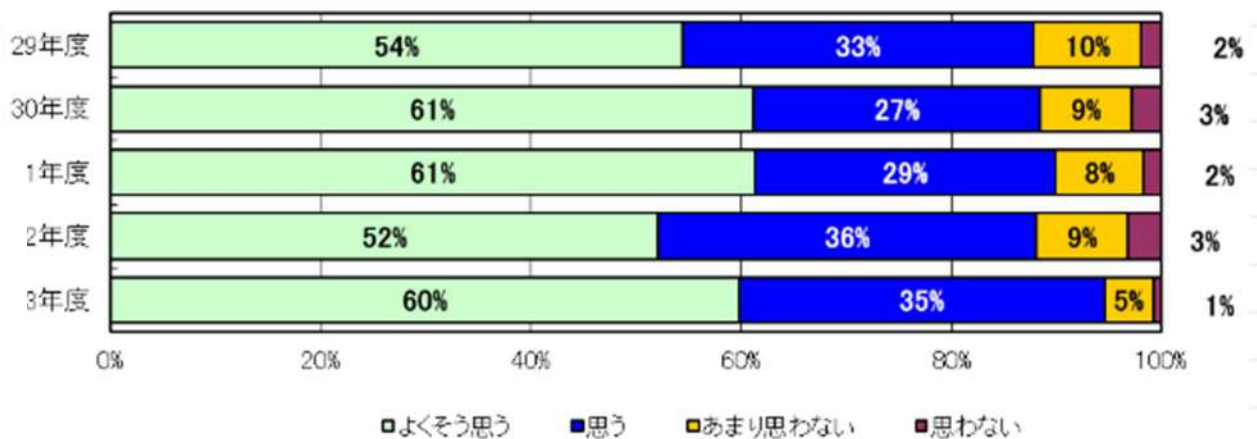


保護者アンケートからも、児童の頑張りを温かく見守り支援している様子がうかがえた。家庭と学校が連携した学習が、子ども達の励みにつながったと考えられる。

今後も基礎・基本の定着を図るとともに、自ら課題を見つけ、自分の考えを発信することのできる力を目指していきたい。朝学習、授業、家庭学習とのつながりを大切にしたい指導の仕方について、教職員間で研鑽を積んでいく。

知識の活用を意識した取り組み

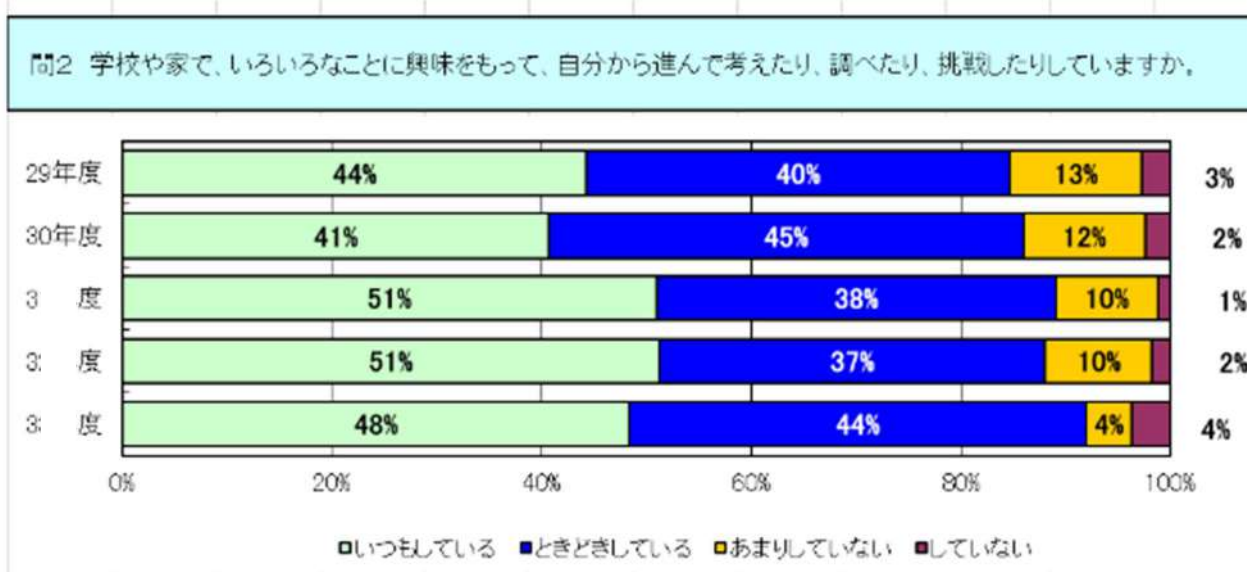
問1 みなさんの作品をかざったり、コンクールにも出したりしていますが、これからもがんばって作品を作ろうと思いませんか。



学習で取り組んだ多くの作品を、教室や廊下に計画的に展示してきた。取り組んだ作品を紹介する場として、「学びの広場」(テレビ放送)を隔月で行った。他学年の学習に触れ来年度の学習に興味をもったり、表現する喜びや楽しさを感じたりできる場として充実させてきた。児童・保護者ともにアンケートからは、学習意欲の向上につながっている様子が見られた。

夏休み前には、課題の参考例として、コンクールの作品募集一覧を配布した。その結果、昨年度よりも多くの応募が見られた。来年度も継続して広報し、学習活動の充実や学習意欲の向上につなげていきたい。

校内研究の推進（生活科・総合的な学習の時間）



本校は生活科・総合的な学習の時間の研究推進校として、昨年度に引き続き自然豊かな南菅地域の特色を生かした教材開発と、児童の主体性をより高める指導の在り方を追求してきた。児童アンケートでは、「いろいろなことに興味をもち、自分から進んで考えたり、挑戦したりする」ことを「いつもしている」「ときどきしている」と回答している児童が、9割以上を占めていた。子ども達の学習の充実感がうかがえる結果となっていた。

②次年度に向けて

引き続き基礎・基本の確実な定着を目指していくとともに、自分の思いや考えを表現できる場を充実させていきたい。令和3年度より導入された1人1台端末も有効的に活用し、多様な表現方法を探り、指導に生かしていく。

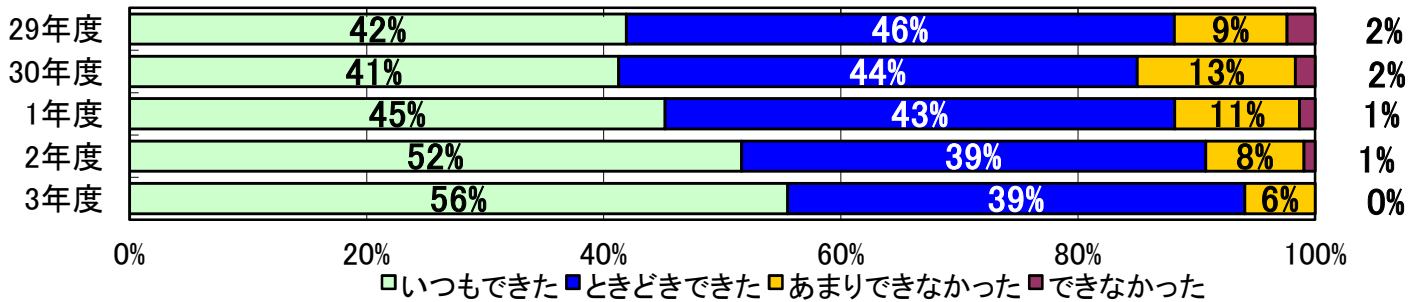
ハートフルプロジェクト

① 学校評価アンケートより

マスクでの生活も2年目を迎え、令和3年度も相手の顔を見てコミュニケーションをとることが難しい毎日であった。そのような学校生活の中でもハートフルプロジェクトでは、今できる教育活動や児童の主体的な活動を通して、思いやりの心を態度や行動で表現する「南萱しぐさ」を実行していくための取り組みを行ってきた。令和3年度のハートフルプロジェクト児童アンケートにおいては、学校生活全般でポイントアップしている。良いところも改善の必要のあるところも自己をよく見つめ、振り返っている様子が伺える。

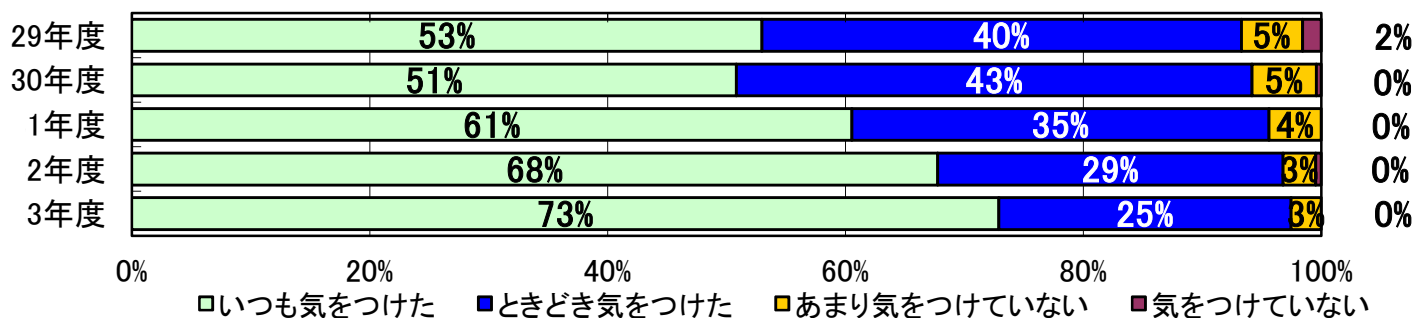


問4 廊下や階段を静かに歩くことはできましたか。



全般的にポイントが高かったアンケートであるが、この項目においては例年より「できた」の割合が上がっていても、実際に児童の様子を見ていると廊下でふざけていたり、特別教室に移動の際、騒いでしまったりと校内における廊下の歩き方マナーが身につけていないと感じる。児童からの声でも「廊下や階段を走っている人がいたり、さわがしかったりすることが気になる」と児童運営委員会に意見が上がってきている。来年度の課題として残し、児童と一緒に改善するための手立てを考えていきたい。

問1 「ふわふわ言葉・チクチク言葉」の学習後、自分の言葉や行動に気をつけて過ごすことができました



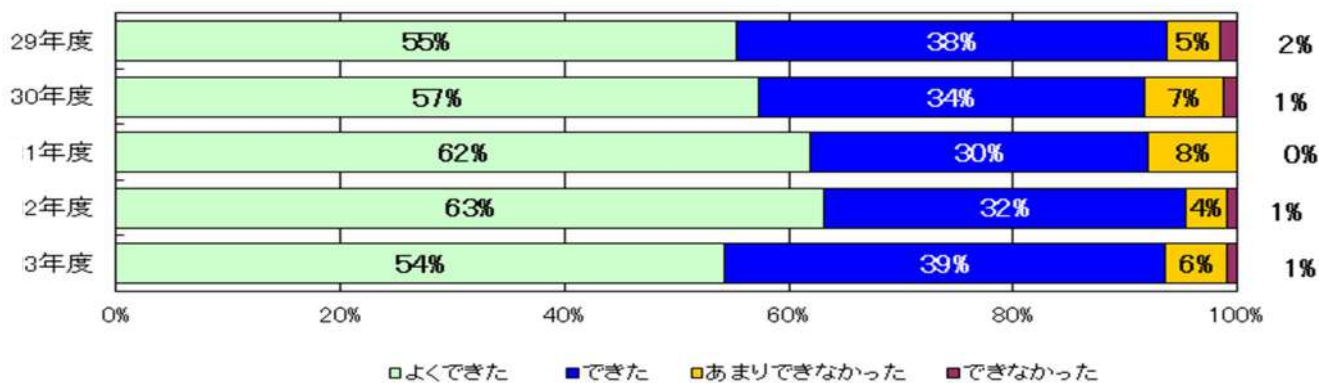
このグラフからは、日常生活において相手の表情が見えない分、どのように友だちと接していけばよいのか、自分の行動に気をつけながら過ごしている児童が大半であると同える。ソーシャルディスタンスを保ちながら生活をする中で相手の気持ちを推し量ることを覚えていったと考えられる。その背景には高学年の生活意識の高さがあり、下級生の模範となっている。

6年生は5月の生活目標「笑顔であいさつ」の取り組みより2月初旬まで、毎朝けやき広場に立ち全校児童にあいさつをしていた。暑い日でも寒い日でも毎日外に立ち、あいさつをする姿を見て下級生も自然とあいさつをする習慣が身についていったと思われる。心を育む取り組みを続けることで高い意識をもつ上級生となりその姿勢を下級生が見て学校生活を送っていく



昇降口に立ち、自主的にあいさつをする6年

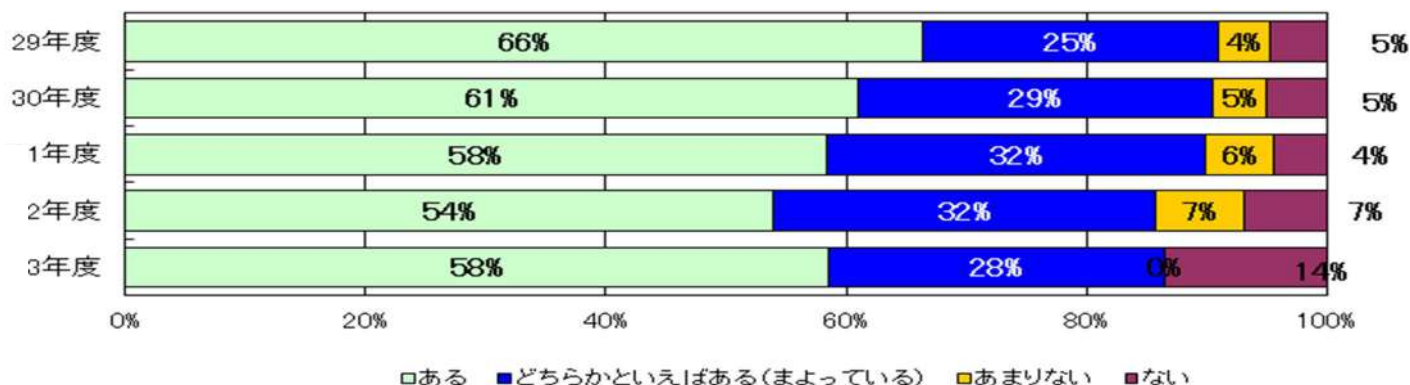
問5 学校や家での自分の役割(係や実行委員・お手伝いなど)に責任をもって取り組んでいますか。(キャリア教育より)



上記のアンケート結果から、約90%近くの児童が責任をもって取り組めたと振り返っている。しかし「よくできた」が下がったところを見ると「やりきった」という思いはもてていない。活動ができていても「できた」といえないところがある。本校児童の特徴として言われたことは責任をもってできるが、自分から考え、先の見通しをもって行動することにやや課題がある。思いやりの心を育ててきたプロジェクトの取り組みで、他者意識や学校全体を大事に思う気持ちは育ててきているので、誰もが気持ちよく過ごせる南菅小学校になるよう今後は、先の見通しをもって自ら行動できる人になるよう支援をしていきたい。

② 次年度に向けて

問6 将来の夢や目標がありますか。(キャリア教育より)



今回のアンケートで、よりハートフルプロジェクトの様々な取り組みの重要性を感じたのが上記の項目である。1年後の自分が想像できず、夢や目標がもてないという児童が増えていることに一抹の不安と今後の課題を見ることが出来る。こんな時だからこそ、学校だけでなく家庭との連携を図り、より良い心の育成を図っていくことの大切さも見えてきた。また、コロナ禍の状況で多くの取り組みや手立てを見ていただくことがかなわず、家庭に伝える難しさも実感した。昨年度よりいろいろな場で発信していくことの必要性を感じながらもうまく伝わらない現状をひまえ、まだまだ改良の余地があると思う。子ども達が学校で学んでいる姿を家庭に伝え、学校が目指していることを理解してもらうことで、学校と家庭が自転車の両輪のように同じ方向を向き、子ども達を前に進めていくことができると考える。どんな状況下でも子ども達が夢や目標をもって成長していく姿を見えるような取り組みを今後も展開していきたい。

元気プロジェクト

①学校評価アンケート結果より

令和3年度の元気プロジェクトは、休み時間の運動や遊び等、体を動かす機会の確保や感染症対策を講じた体育学習の取り組み、健康面に関する活動に重点を置き実践してきた。令和3年度もコロナ禍での影響を探るため、「運動への親しみ」「健康に関する意識」について、アンケート結果をもとに令和3年度の取り組みを振り返ることとした。

運動への親しみと体育学習の充実

昨今、心配されているのが、コロナ禍の子どもたちの体力への影響である。令和3年度は感染状況を見極め、各クラスへのボール配当の再開や休み時間の校庭使用配当の緩和等、できる限り外遊びの機会を保障できるようにしてきた。さらには、運動委員会による外遊びの企画等、運動へ親しむ機会を提供してきた。その結果、わずかではあるが、昨年度より休み時間に遊びをしている子の割合が増えてきた。しかし、子どもたちの体力向上にとって十分とは言えない現状である。

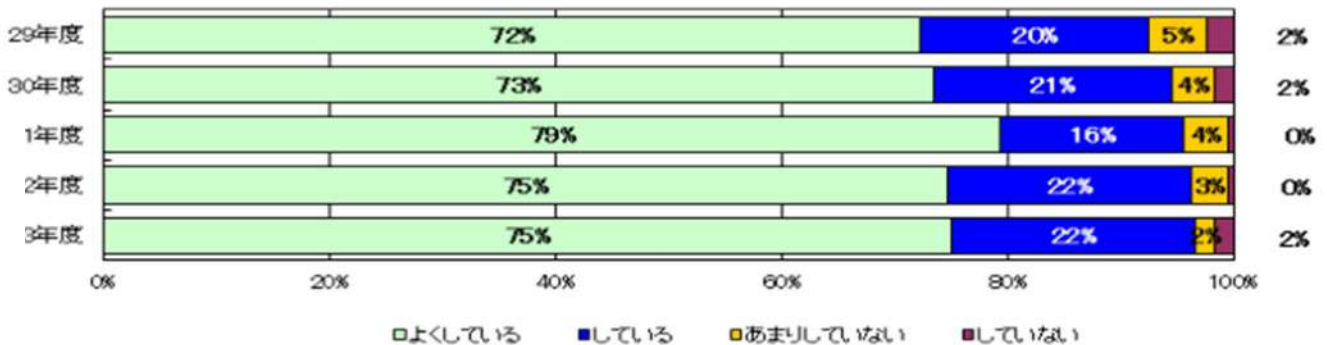
そこで、重要となるのが体育学習の充実である。感染状況の変化に応じた体育学習のカリキュラムの組み換えや、3密を避ける活動の工夫により、子どもたちが安心して運動に親しむことができるようにしてきた。また、外部講師によるスポーツ教室の開催や職員の実技研修を行い、運動のもつ特性を味わったり、限られた時間の中でも様々な運動に繋がる体の使い方や感覚を養うことができる運動を体育学習に取り入れたりできるようにしてきた。

その成果として表れているのが以下の2つのアンケート結果である。体育の時間に運動を楽しんだり、技能の高まりを実感したりしている子が多いことが分かる。このことから、元気プロジェクトが目指してきた体育学習の充実が、その成果として表れてきているのではないかと考えられる。



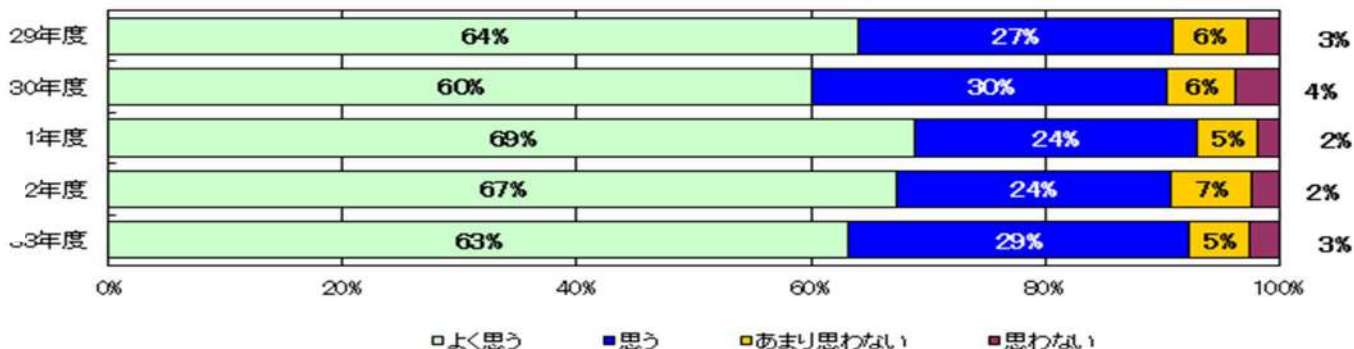
児童アンケート

問4 体育の時間はいろいろな運動を楽しんだり、思いっきり体を動かしたりしていますか。



児童アンケート

問5 体育の最初の時間と最後の時間を比べると、その運動が前より好きになったり、いろいろな動きができるようになったりしていると思いますか。



健康に関する意識の向上と実践の充実

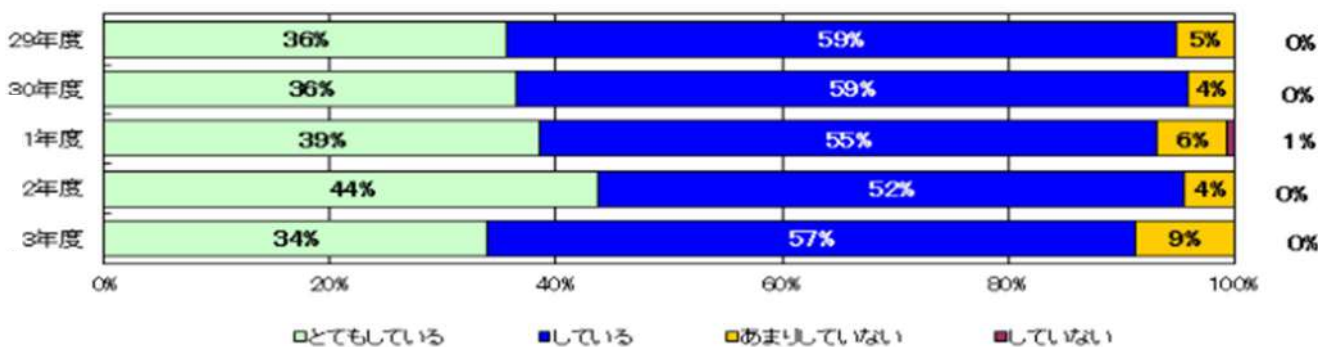
子どもたちの健康を維持するために、令和3年度も手洗い場やトイレの環境整備と石けんでの手洗いを習慣化するために、放送で手洗いを促すなど、日常の取り組みも大切にしてきた。

ご家庭でも健康に関する意識が高まっていることが、アンケート結果に表れている。アンケート結果から、健康に生活することを意識できるように努めている家庭が大変多いことが分かる。また、健康への意識の高まりが子どもたちの生活にも反映され、睡眠・食事・手洗い・うがい・歯磨き等の取り組みについては、どの項目についても、ほぼ全員が取り組んでおり、自分の健康に対する意識の高さは、過去5年間で一番高い結果となった。



保護者アンケート

問7 早寝早起きやバランスのとれた食事など健康に生活することをお子さんが意識できるように努めていますか。

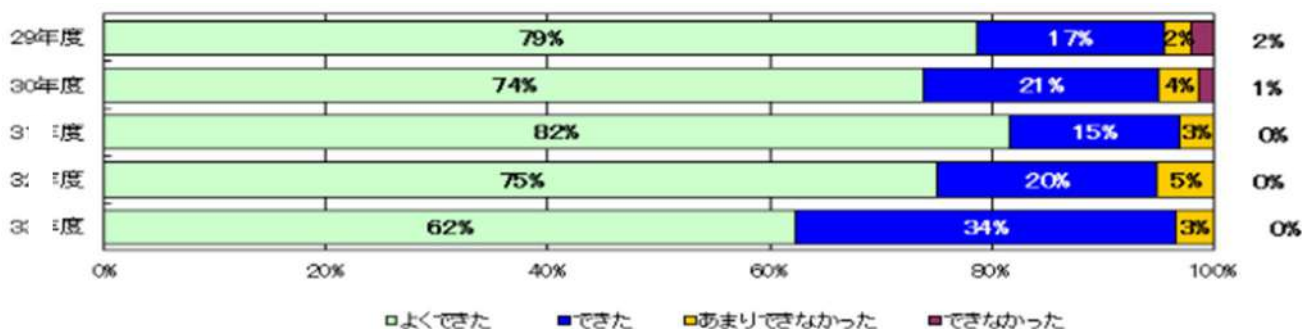


行事や学校生活への積極的な関わり【キャリア教育】

体育的行事や学校生活を通して、子どもたちの主体性の育ちを見ることができたことも、成果の一つと言える。手洗いや外遊びのきまり（感染症対策）を放送で呼びかけたり、休み時間の縄跳びやボールを使った遊びの体験コーナー等（GOGO スポーツチャレンジタイム）を展開したりと、感染症対策による制限がある中でも、自分たちにできることを子どもたちなりに考え、前向きに取り組んでいる姿を様々な場面で見ることができた。アンケートでは、全力で取り組むことが「よくできた」「できた」と答えた子が大変多く、学校生活の中で自分の役割を果たすことができた達成感を味わっていることが伝わる結果となった。運動会などの行事や日常の活動を通して「子どもたちが考える、作り上げる」ことを重視し、話し合い活動や試行錯誤しながらよりよいものへと作り上げていく過程を大切にした取り組みが、成果として表れていると考えられる。

児童アンケート 【キャリア教育】

問3 運動会や学校生活では、自分の役割に全力で取り組むことができましたか。



②次年度のに向けて

令和3年度の課題として挙げられるのは、子ども自身が目標をもって取り組む体力づくりである。毎年6月に行っている新体力テストの結果をもとに、体力を高める運動遊びを休み時間に提供したり、定期的に自分の体力を測定する機会を設けたりするなど、年間を通して、自分の体力に目を向け、目標をもって体力づくりに取り組むことができるようにしていく必要がある。

また、成果として表れてきている「体育学習の充実」や「子どもを主体とした運動会づくり」について、今後も取り組みを進めていくことで、心身ともに健やかな子どもの育成を目指していきたい。